ぺたと語義

【第６回】

contents

［コラム］
教育方法の研究会？
…筧　捷彦

［解説］
東京大学における一般情報教育
…玉井哲雄

［解説］
北海道大学における全学教育としての情報教育
…布施　泉・岡部成玄

Column

教育方法の研究会？

J07 が世に出てしばらく経った．J07 の名前はそれなりに引用されるようになったが，実際のカリキュラムに反映されているのだろうか．それを調べるプロジェクトが進んでいる．その結果も踏まえて，J07 の後継カリキュラム標準の準備も始めようかという話が出てきている．

振り返ってみると，J07 策定の作業が行われていた頃，産業界から，高度 IT 技術者が大学教育で育ってきていないではないか，との大学批判の声が挙がった．それもあって，文科省や経産省も各種補助制度を設けて，種々の「人材育成」を看板に掲げた大学での「教育改善」が行われてきた．それにもかかわらず，問題が解決した，という声が聞こえてこないのはなぜだろうか．

産業界からの指弾は，大卒者が「実践力」に欠けるという．対して，大学側は，大学は「学識」を与えるのが任務であり，本来「実践力」は産業界に入ってから磨いていくものでないか，と応じてきた．でも，本当に「学識」を「与えて」きたと胸が張れるのか．

与えるべき専門の「学識」は J07 が示している．そこに並ぶ知識を講義で語ればそれらを「与える」ことになるのか．どうやったら「学ばせる」ことができ，何によって「学んだ」と知ることができるのか．J07 は，何も答えてくれない．

J07 は，情報専門分野の知識を整理し，知識体系として示したものである．教え方，学ばせ方，身に付いたかどうかの計り方，などを示してはいない．カリキュラムを構成するには，教育方法に関して研究と実践の積み重ねが J07 のほかに必要となる．学会としてこれをなしてきたのか．

さらにいえば，「専門知識」も「学識」も年々歳々ふくれあがり，ときには「パラダイム」さえも変わる．学会誕生以来の 50 年間を顧みれば明らかである．とすれば，その時点での知識を「教え込む」ことではなく，どう学ぶか，どう考えるか，どう判断するか，そしてどう自省するか，という基本の力を「育む」ことにこそ，大学教育の価値を置かなければならないことになる．産業界が大学に求めているのも，実はこのことなのではないだろうか．

教育に関する研究会はすでにある．しかし，それらでこうした教育方法の研究が展開されその成果が教育の場で活かされている，という状態ができているかというと，はなはだ心細い．既存の研究会で研究方法の研究を推進してもらうか，教育方法そのものを主テーマとする研究会を起こすかする必要があるだろう．

筧　捷彦（早稲田大学）

ロゴデザイン ● 中田 恵　　ページデザイン・イラスト ● 久野 未結